

平成24年度 講師派遣活動記録

整理番号:20121120

事業名	環境教育およびエコロジカルライフを实践するための講座開催事業
-----	--------------------------------

活動名	総合学習としての環境教育支援
-----	----------------

担当者	松田 智	主催団体	NPO法人エコライフはままつ
-----	------	------	----------------

事業区分	講師派遣	事業サイクル	継続事業
------	------	--------	------

活動の目的	静岡大学教育学部附属浜松中学校からの依頼（依頼文別添）に応え、総合学習としての環境教育に講師を派遣する。
-------	--

実施内容	
活動日時	平成24年11月20日(火) 14:30~15:30
活動場所	静岡大学工学部物質工学科 松田研究室 (浜松市中区城北3-5-1)
活動者名	松田 智
詳細	2年生生徒努力・ピリヤンカさん・池田裕布里さんの2名から予め学習課題を受け取った。課題とされた「自然と環境」に関して講義と質疑を行う。

事業の成果	<p>訪問の趣旨について質疑応答の後、主に廃棄物問題の基本的な状況について説明した。</p> <p>要点：廃棄物には一般廃棄物と産業廃棄物があり、普段我々が目にする「ごみ」は一般廃棄物である。</p> <p>これは全国で年間約5000万トン排出され、処理責任は市町村にある。私たちの日常生活がゴミで溢れかえらないのは、浜松市が予算を使って収集・処理・処分をしているから。</p> <p>現在、ゴミの処理等で環境汚染や健康被害などの問題は起きていない(起こさない努力をしているから)。</p> <p>困っているのは、最終処分場の逼迫である。埋め立てる量を減らすしかないが、そのためにリサイクルやゴミ減量に意味がある。なお、ゴミ減量の活動は、地球温暖化防止とは直接的な関係はなく、身の回りの環境を良い状態に保つ点に意義がある。地球の気温と大気中CO2濃度に相関関係がないことは、気象庁のHPにある生データを見れば分かるし、日本のCO2排出量は世界の4%に過ぎず、浜松市の排出量は日本の1%にも満たないから、浜松市のゴミ減量が地球温暖化に関与する割合は無視小である。</p> <p>この例から分かるように、他人から言われたことを鵜呑みにしないで、なるべく実際のデータを調べるのが大切。</p> <p>最近の話題としては、震災がれきの焼却灰の処分問題が挙げられる。以前は1000ベクレル/kg以上はドラム缶などに入れて厳重保管だったものが、今は8000ベクレル/kg以下ならば埋め立てして良いとされているが、安全性は保証できないと思う(松田の見解)。こうしたことにも、目を向けるのが大事。</p> <p>最後に、自然と人間の関係は、対立するものではなく、人間が積極的に環境に関与しなければならぬことを理解して欲しい。</p> <p>例えば、農地は不断の手入れが必要だし、日本の森林の大半は人工林で、これからますます維持のための努力が必要になる。自然は何もしないのが「保護」だと考えると、かえって人間と自然との共生も危なくなる。人間は、自然の恵みに生かされながら、その自然を大切に維持する義務がある。</p>
-------	---

事業の課題	熱心に聞いてくれたので、話し甲斐があった。ただし、生徒さんが二人だけだったので、もう少し多くの生徒さんに聞いていただきたい気がした。
-------	--